

な か ま

発行
佐倉市立中央公民館
な か ま 編 集 係

〒285-0025
佐倉市 錦木町 198-3
電話 (043) 485-1801

2 ページ 城と呼んではいけない「お城」…… 赤川 匡宏 おやじの郷土料理…… 木村 優治
3 ページ ご趣味は読書ですか …… 吉野 一志 「趣味」の献血??? …… 堀川 武

佐倉との出会い

池田圭三

昨年四月運良く市民カレッジに入学できた。初めてのホームルームの時間にクラス全員の簡単な自己紹介が行われた。聞いてみると、佐倉市民になったの歳月は三十年を越える人から短い人で半年間とまちまちであった。ただ、ほぼ全員が他の都道府県、或いは他の市町村からの移住者であったことから、佐倉市の人口推移が知りたくなり調べると、市の誕生した昭和二十九年三万五千人。昭和四十年四万人。昭和五十年八万一千人。昭和六十年十二万人。平成七年十六万三千人。そして現在十七万五千人と人口が増加し発展して来たのが分かった。

かきという私も家内も兵庫県の出身でルーツは関西。もともと千葉県まして佐倉市とは無縁であった。佐倉市に移り住んだきっかけは、私が勤めていた会社が私の現在の住所である稲荷台辺りを昭和四十六年に宅地造成をして売り出したことによる。某日、社員へのPRのため観光バスを仕立ててお弁当つきで見学者を募った。当時、私はまだ三十代半ばでそれほど持家について真剣に考えていなかったが、二人の息子も小さかったので、ひやかし半分のピクニック気分で見学した。バスは順調に走りお弁当を食べているうちに現地に到着。当日は雲一つない快晴で、小高い丘の上からは緑の美しい里山風景、田園風景が見られ、そこを赤色の京成電車が走っている。まさに牧歌的な風景ですっかり気に入った。家内は美しい風景もさることながら、きれいな空気が喘息気味だった次男のために良いだろうと賛意を示した。息子二人は宅地内を飛び廻っているバツタを

掴まえてご満悦。ひやかし半分の見学会であったが、家族全員の賛同を得て申込むことになった。

昭和四十九年に家を建て移り住んだが、当初は日用品を売る店も少なく、道も舗装されてなく雨が降るとぬかるみ、時折蛇に驚かされたり、次男の喘息は見事に治ったが、随分不便な生活を味わった。ただ幸か不幸か、二年もしないうちに転勤になり数年後戻って来た時は、店舗も増え道も整備されかなり便利になっていた。今では大型スーパーも、総合病院も数ヶ所ずつでき、道路も整備されすつかり便利になっている。一方市街地をはずれると、まだ美しい自然が残っており、この佐倉がすつかり気に入っている。きっかけを作ってくれた見学会の日の雲一つない晴天、それにより、より一層美しく見えた緑の風景、更にバツタの群れに感謝である。(編集委員)



城と呼んでは いけない「お城」

私の故郷である高知県は、NHKの大河ドラマ司馬遼太郎原作の「功名が辻」が昨年十二月まで話題でしきりだ。高知県の安芸市土居に、仮に安芸城と表記するが……実際には安芸城というお城は無く、正確には「安芸土居」という。土居とは土井構がまえのことで、簡単に説明すると城の周囲を土の垣かき（土塁）でつくり、その外側を水堀（一重）で巡らすのが基本で、そこは山内氏が土佐一国を支配するため、の地方政治の重要な拠点であった。

氏領内の土居でした。

土佐では長宗我部の旧臣たちを押えこむために、高知城の支城としての機能を果たすべく、窪川くぼかわ、本山、宿毛すくも、佐川、中村の計六ヶ所の土居が公認されておりました。

土佐を与えられた一豊は、長宗我部が国を明け渡すの不安であったし、「一領具足くそく」と呼ばれる、不断は田地をもつて働いている、兵農未分離の下級家臣たちは、各地で騒ぎを起した事も事実です。

安芸土居は、慶長六年（一六〇一）土佐に入国した山内一豊の家老五藤為重ごとうによって構えられ、安芸を中心に千五百石の知行領をもらい、明治の時代まで子孫の方が土居の居館主として続いています。現代土居内の跡地には、市立書道美術館、歴史民俗資料館が建てられております。

（宮前 赤川 匡宏）



おやじの郷土料理

平成十八年度「おやじの食事学 井野中サークル」のテーマは郷土料理です。担当の班がメンバーの出身地の郷土料理をアレンジし食材を調達し、料理をします。案外、これが私の「郷土料理」だと断言できるものが少ないのに気が付きます。また、料理内容が進化（退化？）したのも多く見られます。男性諸氏が言う「おふくろの味」ともちよつと違う感もします。

名古屋名物と言え、きしめん、味噌カツ、櫃まぶしがあります。名古屋駅地下には観光やビジネスの客目当ての店が多くあります。その中でも「味噌カツ」については小生のイメージとぜんぜん違うモノが供されています。普通のトンカツに八丁味噌のタレがかけられ出されており、初めて食する人はこれが名物のそれと誤ってしまいます。

名古屋出身者として正しい味噌カツを知って欲しく、「元祖味噌カツ」にチャレンジしました。元々は、牛スジ肉を串にさし、味噌ダレで一昼夜以上、ぐつぐつ煮込む「ドテ味噌」のタレの中へ、肉少なく、ころも太めの揚げたての串カツをつけ込んで、タツプリの味噌ダレが浸み込んだモノを食べたのが原型です。牛スジの旨味と、ちよつと甘めの味噌ブレンドダレが美味しさをかもし出し、経済的で、うまいが評判となり一躍名物となつたといわれています。調理に時間を掛けるほど美味しくなります。

おやじの食事学では、それほど時間がありませんでしたが、皆さんの工夫で、初めて味わう元祖「味噌カツ」と遭遇し、その美味しさに感動があつたことは言うまでもありません。

（ユーカリが丘 木村 優治）

「趣味は読書ですか」

「趣味は読書ですか」とお尋ねした相手の方は、当時トヨタ自動車工業（現在のトヨタ自動車）の技術担当常務梅原半二氏だった。場所は業務で訪れた同社の梅原常務の部屋である。今から四十年以上前のことで、梅原常務（哲学者梅原猛氏のご尊父）の卓上には、親鸞の『歎異抄』が置かれていたのに気付き、場違いな感じを受けた私はそのような質問をしたのである。

常務は何時もそのような柔らかな笑顔を浮かべ、「吉野君、それは違うね。読書は趣味の範疇には入らない。読書は自身を向上させる手段であって、決して趣味、道楽の仲間ではないよ」と言うような趣旨のお答えであった。

私は当時未だ三十歳前後の青年だったが、常務に懇意にして頂き警咳に浴する機会を、幸運にも多く持つことが出来

たのである。

常務はトヨタ自動車工業の業績が芳しくない頃、創立者の豊田喜一郎氏（現トヨタ自動車名誉会長豊田章一郎氏のご尊父）に強く請われて、東北大学工学部の助教授の地位を投げ打ってトヨタに移籍されたのであった。

今でこそ世界のトヨタだが、当時のトヨタは、経営難に陥り大変苦難な状況下にあった。その常務のご自慢は、御子息の猛氏の活躍だったと思う。

梅原猛氏は当時新進気鋭の学者で、数多くの著書を出版されていた。よく「今度猛がこんな本を出したよ」と仰つて、出版される毎に私に署名入りの新著を下さつたものである。

休日、私が妻同伴で常務のお宅をお訪ねする関係は、私の転勤により僅か二年で終わったが、いまは亡き梅原常務のあの一言が、以後の私に強い影響を与え、今日に至っている。（上志津 吉野 一志）

「趣味」の献血???

「私の趣味は献血です」と友人知人に話をするとう大方の人は怪訝な表情をする。「献血が趣味なんて変なやつだ」と思われることは、重々承知の上の話である。

小生は年三、四回女房共々献血バスを訪れる。

佐倉市内での献血バスは、JR佐倉駅前、佐倉市役所、京成佐倉駅前、京成臼井駅前、ユーカーが丘サティの五ヶ所にて、年間十五回程度実施されている。

なぜ小生が献血に拘るかと言うと、数年前患息が大病を患い、成田赤十字病院で大量の輸血による治療を受けたことによるものである。

幸い優秀な医師による適切な治療により、患息は健康な身体を取り戻し、通常の生活を送っているが、この事による感謝と御礼の意味合いが深い。しかしこの辺の事情を周

困に説明するのは、甚だ面倒であり従って「趣味」として片付けている。

献血方法には、成分献血、四〇〇ミリットル献血、二〇〇ミリットル献血の三つがあり小生は通常四〇〇ミリットル献血をしている。

因みに妻は体重規制により二〇〇ミリットル献血に甘んじている。

住民検診や人間ドックは年一回程度の受診であるが、年数回の献血をすることによって、その度毎の血液検査（生化学検査並びに血球計数検査）のデータが得られ、自己の長期的な健康管理や生活習慣病の予防に大いに役立てている。

献血は、或る一定の条件を満たす健康な人なら、誰でも出来る簡単な社会奉仕活動であり、尊い生命を救う為、七十歳の誕生日まであと何回出来るか楽しみでもある。

（中志津 堀川 武）

3月の黒板

平成19年度佐倉市民カレッジ受講生募集のお知らせ

健康で生きがいをもちながら、住みよいまちづくりを考え、地域で活動することを目指す学習です。1・2年生は「であい課程」で一般教養を学び、3・4年生は「専攻課程」で学びを深めます。

入学資格 市内在住で4年間継続して通学できる40歳以上のかた（再入学不可）

募集定員 100人（60歳以上80人 40歳以上～59歳以下20人）
（年齢は平成19年4月1日現在。定員を超えた場合は抽選）

願書受付 平成19年4月1日（日）～7日（土）午前9時30分～午後4時
中央公民館へ本人が持参

学 習 主に水曜日（学習日数 年間36日程度）講義、話し合い学習、校外学習など

修業年限 4年 **費 用** 年額10,000円（材料費、保険料などは別途負担）

*詳しくは、入学案内・入学願書が市内の公民館・図書館にありますので、ご覧のうえ応募して下さい。

お問い合わせ 佐倉市立中央公民館（第2・第4月曜日は休館日です）

電話 485-1801

URL <http://www.city.sakura.chiba.jp/kominkan/cyuuou/index.htm>

わくら道

文章を書くときは、以前はもっぱら手書きでしたが、最近では、ワープロで書くことが多くなりました。殊に、縦書きにしる横書きにしる、一行の字数や行数がきめられている場合や書きなおしする場合には、ワープロは大変便利です。それでは何でもワープロが有利かというと、そうでもあ

りません。文章を書いた後でミスがないかどうか読み直してみますが、書いた本人は案外ミスに気付かないものです。ワープロは、一瞬にして文字が活字になって出てくるので、同音異義の字を間違えることがあります。この点、手書きでは字を書いているうちに間違いに気付くことがあります。一度手間になりませんが、ワープロで書いてから、手書きで仕上げるのが、ミス防止に一番有効なやり方です。

あがとき



赤川さん、功名が辻、我が家でも楽しく拝見しておりまして、安芸土居が特例としての「支城」だったとは驚きました。詳しく聞いてみないと、知らないことはたくさんあるものです。知らないと言えば、木村さんの「元祖味噌カツ」想像しただけでヨダレの出る、食してみたい一品となりました。

吉野さん、「趣味は？」と聞かれると、私などもついつい、「読書」と答えてしまいますが、実は、読書から与えられる恩恵は素晴らしいものですね。正に自身を向上させる手段だと共感致します。堀川さん、趣味の献血には深い思いがあらゆようです。誰でも出来る簡単な社会奉仕活動。私も十年ほど献血から遠ざかっておりますが、今度行ってみようかしら…。皆さんも一緒にどうですか？

（越川）